

「再生毛髪的大量調製革新技術開発」プロジェクト

事後評価報告書

日 時: 令和 6 年 10 月 8 日(木) 13:00~15:00

場 所: かながわサイエンスパーク(KSP) 東棟 201 会議室、web

委 員: 梅田 和宏 SIIF インパクトキャピタル株式会社 代表パートナー

大政 健史 大阪大学大学院工学研究科 工学研究科長・教授

兼子 博章 帝人株式会社コーポレート新事業本部再生医療・埋込医療機器部門長補佐

西村 栄美 東京大学医科学研究所老化再生生物学分野 教授

報告者: 「再生毛髪的大量調製革新技術開発」プロジェクト

プロジェクトリーダー 福田 淳二

上記の日時・場所において、「再生毛髪的大量調製革新技術開発」プロジェクトの事後評価委員会を開催し、事前に提出された当該事業の令和 4 年度と 5 年度の研究報告書並びに、当日のプロジェクトリーダーによる成果報告及び自己評価説明、事務局による特許および決算状況等報告を受け、質疑応答並びに、委員間での評価に関する審議を行い、その結果を以下のようにとりまとめた。

【総評】

プロジェクトとして、しっかりと成果をだし、順調に進められた。研究課題評価委員会としては、事後評価として本研究課題成果は高く評価でき、益々発展が見込まれる。詳細については、以下の【研究成果の視点】からのコメント並びに【研究室運営の視点】に記載する。

【研究成果の視点】

研究戦略として、大きく毛乳頭細胞による毛包再活性化、毛包原基による毛包形成、毛包オルガノイドを用いた植毛の 3 つの観点から基盤技術確立に取り組んでおり、研究目標に記載の事項について各々特筆すべき成果が、概ね達成された。探索的臨床試験の開始時期については、

今後のさらなる進展が望まれる。なお、動物での POC としては、全層欠損の創傷治癒後の瘢痕部分など、毛包が失われた皮膚において発毛を確認することができれば有望である。

研究成果の公表については、出すタイミングも含めて、着実に、かつ活発になされている。とくにアウトリーチ活動については特筆すべきものがある。さらに、研究成果の権利化についても、国内外において多数の権利化が戦略的にはかられており、申し分ない。企業との共同研究についても、順調に実施されている。また成果の実用化・技術移転のために設立したベンチャーについては、知財の戦略化や、研究開発の戦略化についても視野に入れて活動しており、充実した成果の実用化・技術移転がはかられている。

【研究室運営の視点】

研究の方向性は妥当であり、研究計画に対して概ね順調に進捗した。3つの大きなカテゴリーにわけて、それぞれで戦略をたてることにより、研究の方向性も明確になっている。また、共同研究、競争的資金についても、様々な方面からバランスよく十分な資金導入の実績があがっており、これらを含めた経費の配分、人員体制も大変適切であった。

令和 6年10月8日

委員長 木政偉史